



YOKOHAMA  
共創  
KYŌSŌ

横浜 共創

横浜を共に創る

YOKOHAMA 共創 KYŌSŌ

横浜市政策局共創推進室

〒231-0017 横浜市中区港町1-1 横浜市府舎7階

TEL.045-671-4391

FAX.045-664-3501

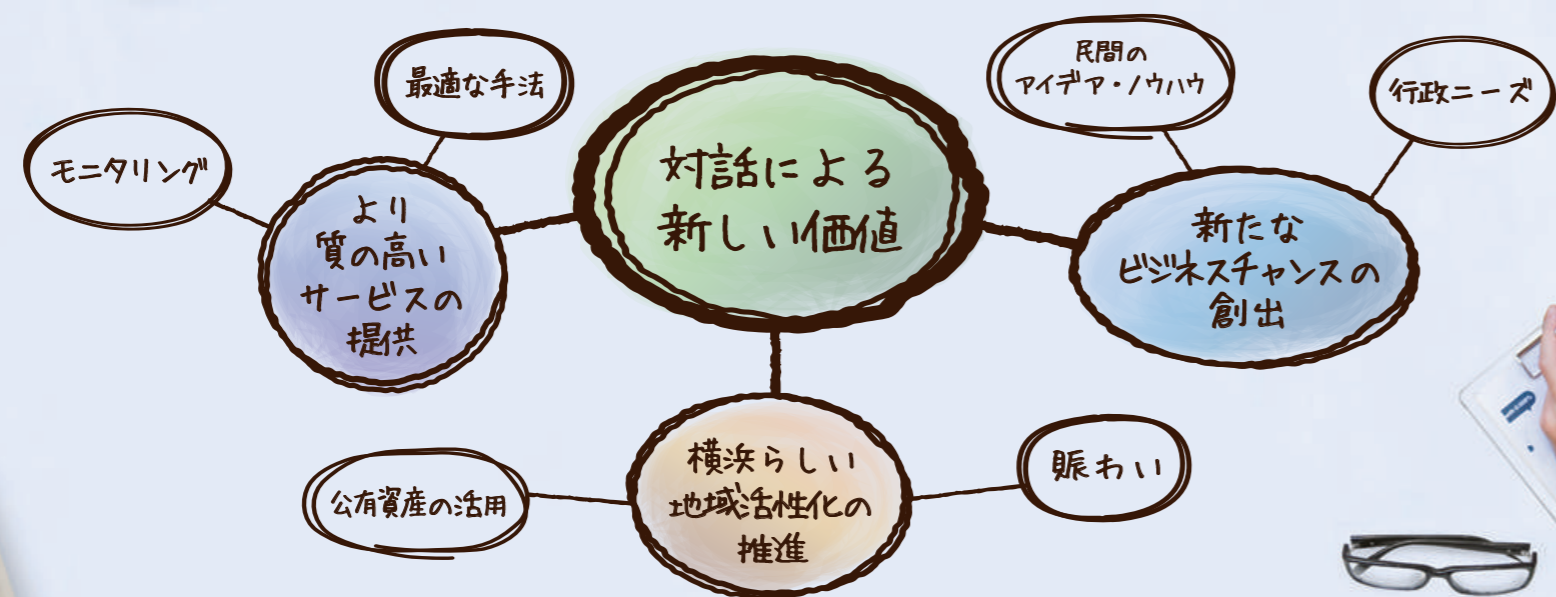
E-MAIL [ss-front@city.yokohama.jp](mailto:ss-front@city.yokohama.jp)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/kyoso/>



私たちは、多くの皆様と双方向の対話を通じて目標を共有し、それぞれの持つ知識やノウハウを最大限活用して、このYOKOHAMAを舞台に新たな価値を共に創っていきたく考えています。

企業、NPO、大学、自治会町内会、市民活動団体等の民間の皆様と横浜市が、互いに知恵や工夫を出し合い、これまで以上に連携して行政課題、社会課題の解決に取り組みます。



## 横浜の共創は“対話”からはじまります



### 共創フロント

民間事業者の皆様から公民連携に関する相談・提案をいただく窓口として、「共創フロント」を開設しています。いただいた提案は、共創推進室が皆様と市役所各部署との橋渡し役となり、実現に向けた検討や調整を行います。



### 共創オープンフォーラム

民間と行政の登壇者が社会的な課題について対話し、新たなアイデアや解決策を見出していく場として、年に1~2回、数百人規模で実施しています。また、横浜市の公民連携の取組を広く周知する場にもなっています。



### 共創ラボ・リビングラボ

企業、大学、NPOなどの皆様と行政が同じテーブルに着き、対等かつ主体的に議論をしながらアイデアを出し合う、少人数での対話の場です。異なる視点や価値観のもとに、具体的な課題を共有することで解決策を見出します。



### サウンディング調査

横浜市の公有資産の活用等について、事業検討の段階で民間事業者のアイデアや市場性の有無を、公募による対話で把握します。また、参入しやすい公募条件の設定を把握するとともに、地域課題や配慮事項を事前に伝えることで、優れた提案を促します。



## レジリエンスな都市を目指して

株式会社ゼンリン／環境創造局下水道事業調整課

東日本大震災以降、業務機能が低下する災害発生時の人員・資機材・情報等を迅速に確保するため、全国でBCP(業務継続計画)の策定が進められています。横浜市は、下水道の資産を全国の政令指定都市で最も多く保有しており、被災時に市民生活への影響を最小限に抑えるため、いかに早く復旧するかが課題でした。そのなか、株式会社ゼンリンと横浜市は「災害時における協力関係を構築するための協定」を締結。その後、同社の地図作成ノウハウと、横浜市下水道事業の持つ災害時の支援経験を活かし、大規模災害発生時に、迅速に下水道管の被害情報を調査できるシステムを試作開発しました。

### 民間の資産と技術を活かし、公共インフラ管理を効率化

このシステムを用いて実施した「災害発生時を想定した下水道管実地調査訓練」では、調査計画の立案から実地調査、情報の取りまとめ等を行うまでの時間がこれまでの半分に短縮されました。また、土地勘のない他都市からの職員の支援を受ける場合にも、迅速に作業を進める事ができるものと考えられ、早期の災害復旧につながる事が期待されています。この取組は、全国の先進的な事例として『国土交通大臣賞(循環のみち下水道賞)』を受賞しました。





## キャラクターの魅力で街に賑わいを

株式会社ポケモン／文化観光局企画課

いつもと違う、様々な表情と体験が見つかる。感性が磨かれ、ワクワクと心が躍る。一日のはじまりが清々しい気持ちであるように、横浜はいつも、「新しい自分」に出会える街。これは横浜市ブランドスローガンです。

株式会社ポケモンと横浜市が協定を結び、子どもから大人まで楽しめる賑わいを展開しています。

2014年にはじめて開催され、以降、横浜の夏の名物イベントとなった「ピカチュウ大量発生チュウ!」。同イベントでは一週間ほどの期間中、みなとみらい一帯にのべ1,000匹以上の『ポケットモンスター』の人気キャラクター、ピカチュウが出現し、さまざまなショーや大行進を行います。ピカチュウの可愛さと、美しい都市景観と歴史を感じさせる街並みが共存する街「みなとみらい」が、多くの観光客を楽しませます。その光景は日本だけでなく海外にも発信され、インバウンドを生み出します。

### 推定接触者人数とメディア露出効果額

2014年	142万人	約2.1億
2015年	196万人	約5.9億
2016年	179万人	約16億
合計	517万人	約24億

### 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた賑わいづくり

横浜市は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、国内外からの誘客促進の取組を強化しています。みなとみらい地区は多くのオフィスビルと並んで商業施設や文化施設も多く、観光スポットとしてのポテンシャルが高い地区です。株式会社ポケモンとの連携協定は2020年まで続き、世界的ビッグイベントと一緒に盛り上げます。





## サステナブルな社会の実現に向けた共創

IKEA港北 / 温暖化対策統括本部調整課・文化観光局観光振興課

三溪園は重要文化財や横浜市指定有形文化財を含む、歴史的に価値の高い建造物を多数有する日本庭園で、文化財建造物を良好な状態で後世に伝えてゆくことを進めています。IKEA港北は三溪園へ127個のLED電球を提供することを提案しました。LED電球は経費を削減する省エネ向上や、CO<sub>2</sub>排出削減といった環境負担を軽減する効果があります。また、LED電球の灯りには紫外線が含まれないため、文化財を傷めにくい効果もあり、経済面と文化財保護の両観点で利点のある提案でした。同園で開催された「北欧美術展」の機会には、合掌造りの建物などに同社の北欧家具を用いた休憩所を設置し、来園者がゆっくり文化芸術を楽しむ空間を創出しました。

### IKEA港北と横浜市の 「環境と調和した社会をめざした連携協定」を締結

横浜市では地球温暖化を抑制し、持続可能な社会の実現を目指した政策を行っています。平成27年にはIKEA港北と、環境と調和した社会をめざした連携協定を締結。省エネルギー対策の推進などを進めています。その取組の一環である「横浜あかりプロジェクト」では、家庭から排出されるCO<sub>2</sub>を削減する取組みとして、省エネ効率の高いLED電球の普及を進める活動を展開しています。三溪園との共創は、来園者に身近な省エネ活動であるLED電球の普及を推進する好事例になりました。



# 共創で生まれたコンテンツ

## 防災啓発に向けた教材絵本「ぼうさいえほん」の配布

株式会社協進印刷 / 総務局危機管理課



危機管理室の監修のもと、親しみやすいイラストとひらがなを使用し、子どもが災害時に取るべき行動を学ぶための教材「ぼうさいえほん」を制作。幼稚園、保育園、市立特別支援学校等・市内地域療育センター向けに配布しており、“一人ひとりの備え”や“地域での助け合い”の大切さについて、正しい知識が学べる内容となっています。

## オリジナルデザインマンホール設置

株式会社横浜DeNAベイスターズ / 環境創造局下水道事業調整課



株式会社横浜DeNAベイスターズは、本拠地横浜スタジアムのある関内周辺の地域活性化を図るため、オリジナルデザインマンホールカバーを制作し、寄贈。JR関内駅、横浜市役所周辺の22箇所に設置しました。株式会社横浜DeNAベイスターズと横浜スタジアムが進める、野球をきっかけに“横浜”に関わるすべての人が一つにつながるためのまちづくりプロジェクト「☆(LOVE)YOKOHAMA」の一環として実施しました。

## 横浜の景観を描いた歴史的所蔵作品をカレンダーに

富士ゼロックス株式会社 / 横浜市中央図書館



横浜市中央図書館に所蔵されている幕末から明治時代にかけて横浜開港当時の風景を描いた「錦絵」を富士ゼロックス株式会社が、顧客向けの壁掛けカレンダーとして制作。同社の印刷技術を紹介するとともに、後世に残したい貴重な資料を鮮明に見ることができるものになっています。図書館で展示していたところ、販売を希望する声が続出したため、見開きA3サイズカレンダーの販売を開始しています。

## ご当地商品の開発で地産地消をPR

山崎製パン株式会社 横浜第二工場 / 環境創造局農業振興課



地産地消の推進における企業と連携した取組の一環として、横浜市と山崎製パン株式会社横浜第二工場は、地産地消に関する協定を締結。市内産農畜産物を使用したランチパックの期間限定商品を定期的に企画しています。第1弾として、具材の野菜に全て地場食材を用いた「横浜産野菜コロッケ&マヨネーズ」が誕生。以降、シリーズ展開がされています。

## 横浜が舞台の小説とコラボ、「消防女子」を募集

「消防女子!!」 ©宝島社/著 佐藤青南 / 消防局人事課  
©竹書房/上遠野洋一



横浜市消防局では、女性職員の割合を増やすためのプロジェクトチームを発足。「消防女子」というキャッチフレーズを思いついた際に、同名かつ、横浜が舞台の小説を見つけ、作者へコンタクトを取ったことから連携がはじまり、消防女子のイラストによるポスターを作成しました。このポスターによる告知効果もあり、初めて開いた女性限定就職セミナーでは、当初の定員を超え、女性職員の合格者数も大幅に増えました。

## ノウハウを生かした妊娠・出産に関する知識啓発冊子

総合学園ヒューマンアカデミー横浜校 / 子育て青少年局子ども家庭課  
NPO法人Fine



高校生や大学生などに若いうちから妊娠・出産に関する正しい知識をもってもらうよう、不妊についての基本をマンガやイラストで解りやすく解説した「妊娠・出産MyBook」を制作。イラストは総合学園ヒューマンアカデミー横浜校のマンガカレッジの生徒が作成し、不妊体験を持つセルフサポートグループNPO法人Fineが、学生への事前講義と全体構成を担うことで、不妊当事者の視点で描かれた冊子になっています。

## 横浜を共に創っていきましょう

横浜市長 林 文子

